

# タイの技能実習生、第一関門を突破

タイから公益財団法人茨城国際親善厚生財団（IIFF）を通して初めて介護の技能実習生として来日したユパボン・アヤワンさんは1月10日、多田正毅会長を通じて介護技能実習評価試験の合格証を手渡されました。

アヤワンさんは、昨年4月28日に来日し、約1カ月間の入国後講習を受けて、6月から城西病院で実習を受けています。タイを拠点に行っていた国際医療支援のプロジェクトでIIFFスタッフとして協力、バンコクの看護学校で看護助手の仕事を学び、バンコクの病院で働きながら、大学の通信教育で経営監理を学んでいた経歴を持ちます。

今回合格した試験は、技能実習の中で学んだことを筆記試験と実技試験によって成果を見るものです。昨年12月13日に試験が行われ、「合格するまで不安でいっぱいでした」と語るアヤワンさん。「担当の先生が一生懸命教えてくれて、周りの皆さんも優しく楽しく仕事を覚えることができました」と話す。試験については「本当に日本語が難しかった。患者さんに声掛けをしながら介護を進める実技試験が、一番たいへんでした」と振り返る。

アヤワンさんは3人の子供のお母さん。仕事が終わると毎日のように、携帯電話で子供たちと話しているといいます。「研修は忙しいですが、みんなに教えてもらいながら頑張っていきたいと思います」と語っていました。

2023年1月12日

